

第11回災害対策本部会議における知事コメント

地震発生から5日目を迎えます。厳しい暑さが続く中、昼夜を問わず全力で災害対応に当たっていただいている全ての皆様、毎日本当にお疲れ様です。改めて感謝申し上げます。

人的被害について、昨日から2名増え、38名になりました。そのうちの1名については、災害関連死の可能性があり、車中避難中で、熱中症の疑いがあるケースと伺っています。

改めてお亡くなりになられた方々に対し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

また、遺族の皆様には謹んでお悔やみ申し上げますとともに、県としましても、車中泊対策・熱中症対策をさらに強化していきたいと思います。

インフラ復旧の面では、上水道については、昨日から約2万3千戸の断水が解消されており、着実に復旧が進んでいますが、被害が甚大な地域では、もうしばらく時間がかかります。

残る4万6800戸についても、国や関係機関のご協力をいただきながら、早期に復旧していきたいと思います。

下水道については、点検が完了していない4市町の管渠（かんきょ）について、国や自治体の応援職員の方々、関係者のご支援のもと、本日（2日）から16班66人態勢で点検を開始いたします。今回の点検に合わせて、応急対策も同時に実施することで、早期の機能確保が図られるものと期待しています。更なるスピードアップに向け、点検体制の強化など、国や関係者の皆様には、引き続きご支援をいただきたいと思います。

改めて、猛暑の中、作業していただいております国や関係者の皆様に感謝を申し上げます。

被災地での移動に重要となる「ガソリン」について、国のご尽力により、平時の4倍の供給量を確保していただき、数量制限がほぼすべてのガソリンスタンドで解消されております。現在も、やむを得ず「車中泊」をされている方が多くおられると思いますが、資源エネルギー庁にまとめている「検索マップ」を活用して、給油をしていただきたいと思います。

また、被災した地域では、全国からの応援職員に現地入りしていただき、罹災証明や災害廃棄物の処理に向けた手続きが進んでいます。被災された方々の避難先での熱中症対策はもちろんのことですが、こうした手続きの待ち時間や従事されるスタッフの熱中症対策も重要です。

建物内で冷房が効く場所が第一優先ではありますが、業務によっては、屋外にならざるを得ないケースもあるかと思います。

そうした中、バス会社からは、ありがたいことに運休中のバスについて、運転が再開するまでの間、クーリングスペースの提供の申し出がありました。こうした資源を活用した待機場所の確保などについても、併せて検討をお願いします。

また、自衛隊、海上保安庁から入浴支援をいただいておりますが、被災された方のニーズも大変多いので、積極的な情報発信をお願いします。

令和8年（2026年）8月2日9時30分
防災推進課

復旧・復興が加速していく中、ここからが、「行政職員の腕の見せ所」です。今、どこに新たなニーズがあるか、そして活用できる資源がどこに眠っているかを見定め、「被災者ファースト」の対策を実施していきましょう。本日もよろしくお願いします。